

業務部速報

発信者》JREU
仙台地本業務部 / 湯ノ目
〒983-0852
仙台市宮城野区榴岡1-4-3
TEL 022-297-0155
FAX 022-291-3070
JR 031-3981~3
FAX 031-3980
2019年 2月 28日

2018年度申9号「電気部門の変革2022」に関する申し入れ提出

遅くなりまして申し訳ございません。2月19日に「電気部門の変革2022」に関する申し入れを提出しました。詳細や不明な点等ございましたら、地本業務部に連絡を下さい。交渉内容などは、後日お知らせします。

「電気部門の変革2022」の提案後、本部・本社間申 11, 12 号交渉を踏まえ、新幹線・在来線の体制やスリム化等について、一定の内容は明らかになりました。しかしながら、「モニタリング装置」では、今施策によって新たに導入される予定ではあるものの、詳細が検討段階の事案が複数あります。また、新幹線体制の確立のように、職場のあり方が大きく変わる事項があり、会社における働き方と今後のライフプラン含めて、多くの組合員・社員が将来への不安を抱えているのが現状です。この間、設備 21 やその見直しを踏まえ、電気部門では、新技術の導入や、直轄とパートナー会社が役割分担を明確にして、社会インフラである鉄道の基礎をメンテナンスし、安全安定輸送を担保してきました。これが、職場におけるモチベーションの維持・向上に繋がってきました。しかし、厳格な時間管理、非常に不規則な夜間作業、感電・墜落・触車等のリスクが高い業務は、肉体的・精神的な負担が大きい業務内容です。また、パートナー会社においては、工事量の増加もあり、業務内容から離職者数が多く、特に地方においては労働力と協力会社の確保もままならない状況だと認識しています。今回の「電気部門の変革2022」の議論においては、現在抱えている問題・課題を先送りするものではなく、現場で働く組合員・社員、パートナー会社社員の安全、健康、働きがい担保するため、「技術的な判断」を身につけることの出来る環境の構築と、異常時対応力の確保等が必要不可欠です。現場の組合員・社員が、納得と将来の展望を持って施策を担うために、施策について不安点等を解消・解決していくことが必要です。つきましては、以下のとおり申し入れますので真摯な回答を求めます。

【共通】

- 1, 今施策の目的等を明確にすること。
- 2, 電気部門の在来線の効率的なメンテナンス体制の確立、電気部門の新たな新幹線体制の確立、電車線モニタリング(在来線検測車)について、具体的な実施個所とメンテナンス範囲と移管内容、デポの整備内容と備品・リネン管理と担当者、財産・備品管理や被服類、要員効果について明らかにすること。
- 3, 郡山電力・信号通信技術センターの廃止に伴い、移動時間の増加による時間外労働の増加等が懸念されるが、効率的な体制を構築すること。具体的には福島または郡山 MC に設計業務や企画の立会い等の担当者を配置するなどの体制をとること。
- 4, 今施策により、JR 本体における技術的な判断力を平成採用者が身につけるために、エルダー本体雇用を最大限活用すること。

【電気部門の新たな新幹線体制の確立】

- 5, 新幹線を専門的にメンテナンスし、異常時に即応可能な体制を構築するため、基幹技術である電力または信号通信を総合的に対応できる技術者を育成するにあたり、時期・期間・教育方法・箇所・内容・体制などを明らかにすること。

…施策毎、14 項目(詳細は別途)を申し入れています。

「安全・健康・ゆとり・働きがい」のある職場づくりをつくり出そう!